

○ 担当した支援業務

- ・DX 推進支援
- ・タウンプロモーション委員会運営事務
- ・オープンミーティング運営事務
- ・行政改革実施計画見直し業務
- ・第5次播磨町総合計画後期基本計画策定事業
- ・職員研修事業（職員講師による職員への研修開催）
- ・保健師の地区組織活動（地区分担制）
- ・播磨町こども計画策定事業
- ・児童発達支援センター開設にかかる事業（療育事業）
- ・JR 土山駅北周辺地区再整備検討事業
- ・北古田周辺地区まちづくり検討業務
- ・立地適正化計画策定等事業
- ・公共交通活性化事業
- ・空家等対策事業

○ 講師等

- 5月31日：中公おしゃべり場！
- 6月28日：講師力アップ研修
- 8月7日：行政改革懇談会
- 11月6日：コムスク研修@播磨西小
- 11月20日：コムスク研修@蓮池小
- 1月15日：ことぶき大学講師



○ まちアドおしゃべり会

毎週1回、播磨町内にある4コミセンをまわっておしゃべり会を開催しました。「どこに相談していいかわからない」や「新しく始めたいけどどうしたらいいか」といった話が多数寄せられました。お住まいの地区以外のコミセンでも構いませんのでぜひお越しください。実施日はコミセンだよりに掲載しています。

【参加者数】

野添コミセン：25人
南部コミセン：33人
東部コミセン：15人
西部コミセン：14人
※各12回開催。合計48回開催。

○ 広報はりま「まちアド通信」

広報はりまに毎号、まちづくりアドバイザーの活動についてコラムを掲載しています。バックナンバーから御覧ください。

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 4月 学校がオープンになるための取り組み | 10月 あとから見ても話し合いの内容がわかる工夫 |
| 5月 これからのコミュニティ活動を対話しながらつくる | 11月 地域の居場所ができるまで |
| 6月 播磨町のつながりを知り、考える機会 | 12月 学校と地域の連携のこれから |
| 7月 兵庫県立大学の学生が播磨町でフィールドワーク中です | 1月 最近のまちアドおしゃべり会の様子 |
| 8月 対話で作り上げるこれからの公共施設 | 2月 誰一人取り残されないまちを目指して |
| 9月 役場職員の講師力向上研修を実施しました | 3月 地縁組織の活動や運営見直しのススメ |



播磨町まちづくり アドバイザーとは

播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズにより細かく対応するため、令和2（2020）年度からまちづくりの専門職員として「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援し、地域力の向上を図ってまいります。

まちアド 2024 Annual Report

播磨町まちづくりアドバイザー 令和6年度活動報告書



オープンミーティング@南部コミセン

「つながり感」のあるまちを目指して

播磨町まちづくりアドバイザーに着任して5年が経ちました。多くの自治体では人口減少や少子高齢化が地域の課題とされ、人口ピラミッドは壺型になることが一般的です。播磨町の人口ピラミッドを見てみると、70代と40代に山があり、他の自治体とは状況が少し異なります。ある調査によると30-40代の転入超過率は播磨町が兵庫県で一番です。1970年代には人口8,000人程度だったまちが2025年現在では34,000人が住むまちになりました。協働のまちづくり宣言にもあるように、播磨町のまちづくりのキーワードは世代や立場や価値観を超えた対話です。ここ最近、町内のいろんなところで大小さまざまな対話の機会が増えているように思います。こうした取り組みはすぐに効果や成果が出るものではないですが、対話を繰り返すことが10年後20年後の播磨町を豊かにすると思っています。小さいながらも粘り強さがあり、つながり感があるまちを目指してこれからも多様な対話の場をつくり続けたいと思っています。

多様な町民での対話の場

R6 年度もこれまで以上に対話の機会が繰り返され、新たなつながりや話題が取り上げられました。特に子ども・若者に関する話し合いの場が増えていています。

町長と語ろう「オープンミーティング」

4 つのコミセンでオープンミーティングを開催しました。今回は町長との対話だけでなく、参加者同士も話し合う時間をつくり、参加者同士がつながる機会にもしました。



こども計画若者ワークショップ

播磨町ではじめて策定するこども計画に若者の意見を入れたいということで、若者ワークショップを開催しました。参加者は多くはなかったものの、暮らしのことこれからのことを話し合いました。



青少年問題協議会

年 2 回開催する青少年問題協議会も行政からの報告だけでなく、委員での話し合いの場に変わっています。R6 年度は尼崎ユースセンターの活動を学ぶなど、他市町の取り組みについても知る機会となっています。



兵庫県立大学フィールドワーク

R6 年度から、兵庫県立大学環境人間学部の 2 年生が授業の一環で播磨町内をフィールドワークしました。若者の居場所や空き家をテーマに町内のいろんな方の話を聞き広報はりに掲載しました。



中央公民館おしゃべり場

公共施設の運営を市民参加で行うための取り組みです。中央公民館をみんなでつくるために、どんなことができるかなどを話し合いました。冒頭、社会教育施設について話題提供をしました。



自治会連合会研修会

自治会長の研修会も一方的に話を聞くだけでなく、規模の近い自治会ごとにテーブルに分かれて、日頃の活動について話し合っています。こうした機会での初めの自治会長でも相談できる関係を作っています。



地域コミュニティを育む取組

播磨町内の 4 つのコミセンでは、組織体制や活動の見直しなどこれからのコミュニティがより充実するための取り組みが進みつつあります。そうした内容についてコミセン館長の相談にのったり、企画を一緒に考えたりしています。また自治会からの相談にも対応しています。これも同じく一緒に考える伴走支援をしています。

野添コミュニティ意見交換会

野添コミセンを運営する野添コミュニティ委員会は活動のふりかえりと今後どのようなコミュニティ活動が必要かについて年に 1 回意見交換会を開催しています。この機会が、コミュニティ活動に関わるきっかけになったり、これまでの活動の改善アイデアを出す機会になっています。今年度も 2 月 23 日に約 40 名の参加で開催されました。



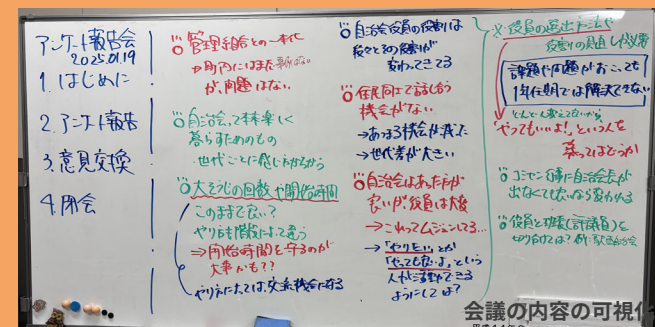
意見交換会の様子

自治会支援

播磨町には 45 自治会あります。自治会からの相談にも対応しており、R6 年度はいくつかの自治会の改善を進めるため役員会などに参加しながら、話し合いをしたり、自治会内でアンケートを実施しました。

【主な相談内容】

自治会規則の見直し、役員選出、防災活動の見直しなど



会議の内容の可視化

地域と学校のつながりづくり

コミュニティ・スクール活動のきっかけとして、各小学校にコミスクコーディネーターを配置し、更に学内にもコミスク担当教員を置き、地域と学校のつながりづくりがより深化するように進めました。課外活動に限らず、授業の一部に地域のみなさんが参加する取り組みが始まりました。

【主な取組】

- ・各校での研修会の開催
- ・コミスクコーディネーター会議の開催 等



コミスク連絡会議

講師になるための研修

役場内の職員研修の一部は、職員が講師となって進めることが増えました。メンタルヘルスや財政についてなど、職員が研修を企画し実践しふりかえりまでをしています。その導入として、講師として何を意識するかについて研修しました。

【研修内容】

- 6 月 28 日 講師力アップ研修（参加者：13 名）
- 内容：研修講師として意識すること、講座の組み方



職員がファシリテーターを務める様子